

人生を

情熱こそが
人を動かす

逆転する

学校

3.11 発売

Lessons to Retrieve
Your Life

教育界に初めてベンチャーを興し、
“日本初にして、
唯一の学校”を
作り続ける男の一代記!!

教育界の風雲児
宮澤保夫

Yasuo Miyazawa

(星槎グループ 会長)

「普通の先生になりたい人は
帰ってください」

角川書店 ￥1,500 (税別)

『人生を逆転する学校』 宮澤保夫著

週間
ベストセラー



「普通の先生になりたい人は帰ってください」
毎年、教員採用説明会の第一声で、この言葉を発する男。それが教育界の風雲児、星槎グループ会長の宮澤保夫さんです。いまでは各地で当たり前のように見られる、学習センターを使った登校型通信制高校。その仕組みを日本で初めて作り、普及させた立役者。なぜ作ったのか？ 学習障害がまだ知られていなかった約30年前に、子供達の「場」を創ることを決意したから。

編集者
飛丸

角川書店編集部第三編集部

岸山 征寛さん

たった2人の生徒から始めた塾は、グループ全体で1万7000人の若者が集う「学校」に成長しています。
長年の闘いを支えたのは、「できないことを立証するのは難しい」という信念。おかげで私も作業中は「難しい」「できない」といったマイナスの言葉を吐けなくなり、様々な汗をかきました。が、訴えたいことがあります。それが生き様と結びついている。『デフレの正体』の藻谷浩介さんもそうですが、そのような著者と巡りあえるのは編集者冥利につきます。
冒頭にあげた宮澤さんの発言後、休憩時間中に半数近くの方は本当に帰ってしまうそうです。しかし、「私は残る」と思われる皆様には、心がとても熱くなる一冊だと断言します。
(1500円)



(角川書店・1575円)

『人生を逆転する学校』

宮澤保夫 著

理想に燃えた男の一代記

世の中には石橋をたたくても渡らない愚者や、走りながら考える行動派がいる。著者は間違いなく後者のタイプだろう。

小学生の時にチェ・ゲバラの思想に出会い、高校時代はベ平連の反戦運動がめめり込め。慶応大で通信課程の学生なのに、「正統の授業やゼミに出席し、世界中の無難中絶を訪ねて海外での修業を広めたい」という理想に燃え、エッセイで他にはまらなからないう二時の青年像を、そのままと書きたる。現代の痛快な一代記である。

22歳で始めた塾ははや幼稚園から小学生1万6500人が集う「星槎(ほしげ)グループ」に発展した。不登校や発達障害児童などの生徒を対象にした「開わりあい教育」は、個性を尊重すること、好きなことを伸ばす学習法と評判がある。通信制の多くは他校の教養を問われるが、仲間を出発する星槎グループのために全国各地に「学習センター」を設置したのもユニークだ。ついに「子どもを育てる大人育て」のための「開校」もいつてもどくどく進める。「生きた学習の通信制大学を創ります」。

設立認可や学校運営のための資金の折衝や文政、ヤクザとの血闘の駆け引き、買収作もあるんだが、トビタテの失敗や部下の裏切り、膨大な借金、会計倒産などの故郷騒動、教師たちの愚行など、思い描かれてからの逆転劇の連続は小説の面白さ。

ただし著者も人の手には絶えず、孤軍に戦い、自費の金で立ち上げた塾を同僚と共感を持って、がんで閉鎖中だが「めけるな、考えよ、その行動を写す、道は必ず開く」というアヒルは、理想を實現させた奇蹟の事実がある。

学校創立時の「人を救えない」「人を救める」「仲間を作る」との3原則は、そのまま「人の救済」の原点だったと再認識させられる事もある。

(宮本まき子・家族間 断り難く)

みやざわ やすお 星槎グループ会長、不登校の生徒らを対象にした「開わりあい教育」で知られる。